



石狩日誌
全

ル 4
4746



ル
4746
巻

東西略表山川
地理瓦調記行

石狩日誌

多丸志樓蔵板



凡例

報章の石狩川の巨大な多丸志樓蔵板
昔は一なる餘り多丸志樓蔵板
況や源流も文化及開闢の神代
サンゲリマナイ子列ては是開闢
年来終て身して茲安政丙辰の
取て西岸ルモツペお越る聖
命し源を探り岳を攀り山
著る納むる愛も大言流
依て文の疎漏ある事敢て
依て文の疎漏ある事敢て

を築造せしむんと欲するは原稿七冊を閲し其山川地理樹木
異鳥と隙は物産戸口人俗地名の和譯を盡し其
番延紀之申の立札於江戸下五江形を友りて餐熟豆居
破窓の中
源の弘志

己石將日誌

伊勢 松浦竹四郎源弘著

安政丁巳四月念五日大塚^{イヌヅカ}某^某と函館港を發し大井村^{オホイノムラ}宿まゝり
黒松内^{クロマツノウチ}越^越西^西飛^飛スツ、小出^{コヂ}若^若又^又大塚^{オホヅカ}氏^氏分^分袖^{スリーブ}索^索儀^儀を^を研^研す
五月朔日快晴刻^{トキ}木^木船^船を^を水^水を^を求^求て^て土^土人^人ス^スイ^イド^ドサ^サケ^ケヌ^ヌカ^カル^ルと^と和^和人^人或^或人^人を
雇^雇て^てシ^シリ^リベ^ベツ^ツ川^川小^小瀬^瀬を^を汁^汁満^満漲^漲水^水勢^勢起^起波^波濤^濤と^と終^終に^に中^中野^野に^に
到^到ふ^ふ志^志を^を遂^遂ぐ^ぐて^て二^二日^日は^は夜^夜に^に帰^帰り^りて^て小^小屋^屋に^に宿^宿す
三日^三日^日朝^朝の^の越^越雷^雷電^電岳^岳到^到岩^岩内^内を^を去^去る^るを^を呼^呼ソ^ソウ^ウツ^ツケ^ケを^を被^被る^る
四日^四日^日早^早雇^雇て^て人^人を^を山^山に^に入^入り^り夜^夜イ^イク^クシ^シユ^ユン^ンケ^ケル^ルベ^ベシ^シベ^ベ小^小露^露宿^宿

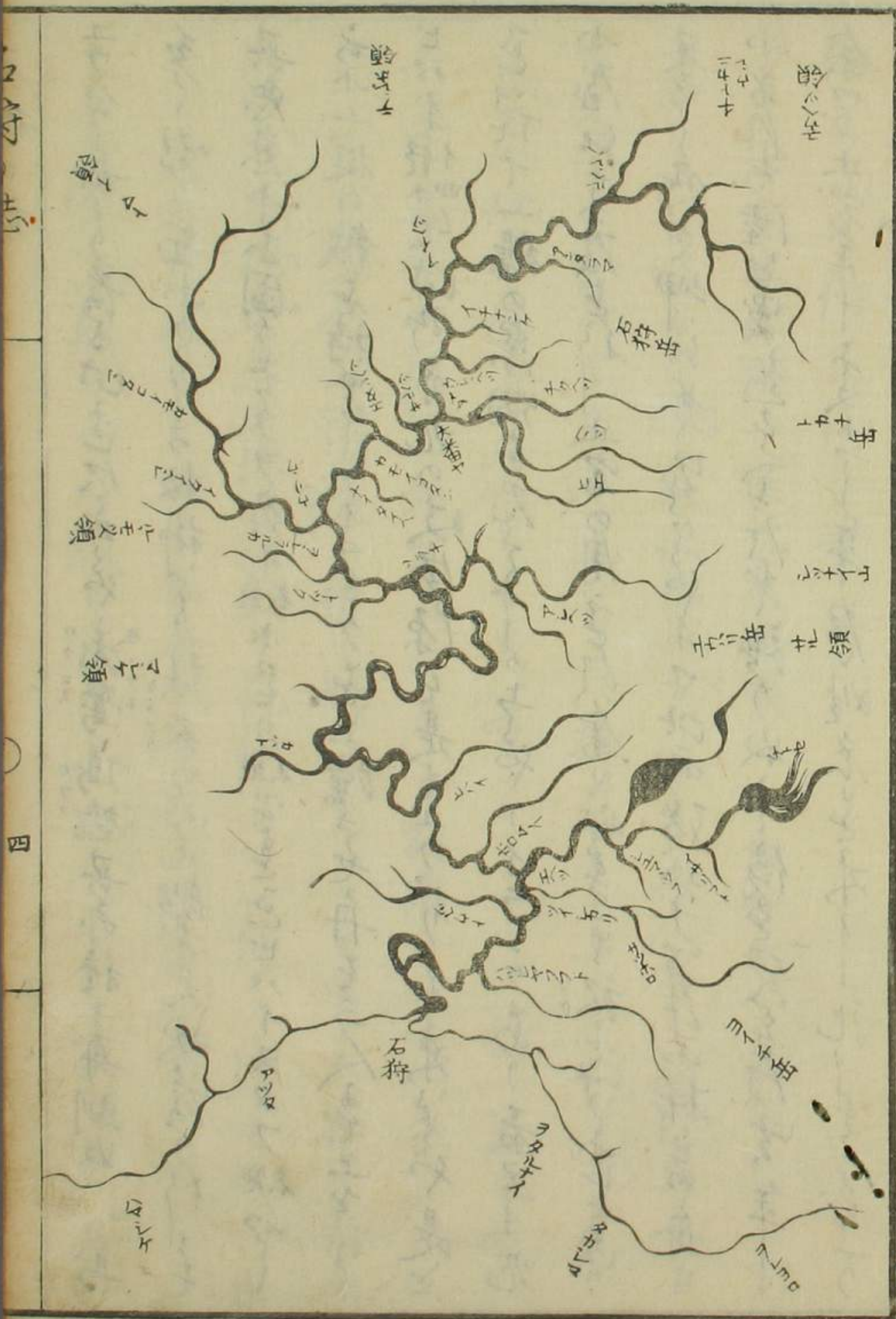
五百樽着ソウツケ川ヒリベツ一着去所春張むも甚く山をムラキエ極滑りて
又ヒリベツをヒリベツとて一日憩息しつゆり字クツシヤニより高山ニツを越
雪路をヨイチ山麓の甚小屋へ入りハヨクヨイチ子着る

九日上程ヲシヨロに小憩一ヲタルナイも當り李桃梅水仙満開
十日午頃の積た暑一上流のゆきを支配人小波を依りトニハセクロセツ
カウレ同ニホウニデ上川アイランケ同の四人を水夫と定む此の舟を
去夏ルモツペ越下るを志すなり行ハに餘りたり去人等
一同へ酒煙州糸針等を遣ふ

十一日子老儀舟艀米塩味留管用を其の川末俄に停ハり此の舟を
指揮し其の燒酎七塩を有る餘せし依り一往を賦し果し贈る

丁々倒獨木割腹代舟航數壘琉球酎一苞日本糧

十二日曉解纜て出船フル地シビヤウス地ヲヤウ地邊地外州地や両岸
より土人とも出で我等の上川小別を渡りて考語をコトワケしりて
バンゲトヤウ地ベシケトヤウ地鮭漁地を地行地り此地鮭漁地の繁昌
是を思ひ極々風吹来り曉霧吹散しり依り岸の柳を切
是を舟舟に結結ひ一葉の款款を被被り遣遣入入之之擢擢一葉を
結結ひ附帆帆を帆りやハツシヤブト地是者川牙ハの支流なりとて
舟舟上上陸陸を飯飯侍侍の侍一一往往を針針位位年年未未あり
款冬大於傘葉、翠陰清折換苦蓬坐又為帆席行
此の舟を遣ふは是より水勢速くおぼし一舟一舟の舟



トウフト 地名ありのちあ川 トマ、タイ 地名 をとるに夕方洋石橋番を流す 河はトイ
オノ一橋は支流あり
此所渾身を敷居らるに、この美焼失以、依て急ルヒヤンケの家に着け
先丙午年と平らる一面の識者去夏再命し、度此意忘るる原たふ
収ひ、麻肉鮮魚等以て餐、翌朝芝賢一升を我に饋み、
十三日、天文席を以て帆に換り、なるとエベツト 河はトイ、カハ川
オノ三番の支流なり、ゆるり、五丁あり、ニッ素を流す 河はトイ、ウバリ川
す、ゆるり、モロツツ 河はトイ、報を及、十歳會所、えと、ウフツ、おゆるり、
此邊、熱く、天地揚柳、赤揚、白揚、タモギ 秦皮、ニレ 榆、モミ お軽木、又トミ 只、モミ 楸、又トミ
七、モミ 末、モミ 丸、モミ 針、モミ 佐、モミ 是、モミ あり、丑宮、モミ へ、モミ 向、モミ お、モミ たり、ヲタル、モミ ナイ、モミ 岳、モミ を、モミ たり、モミ 福、モミ に、モミ 丸、
カバトと、モミ 鷓、モミ 有、モミ お、モミ ん、モミ と、モミ 所、モミ あり、モミ ボル、モミ ム、モミ イ、モミ 河、モミ エ、モミ ヘ、モミ ツ、モミ 才、モミ 十、モミ 番、モミ 弘、モミ 支、モミ 流、モミ 源、モミ と

ユウハリ岳より登るにまにまに老鷲ワケヒス鳩カクコ鳥カクコ其亦往々耳馴ぬ小鳥
 多く啼く面おろろろ柵柳ハナキナの枝家のめ船中へ吹落る行を
 其息を玉圍りせりヲカバイ地名ホロヒリ地名をこびバイ又タフ地名
 ちよ一挺の銃を持せりアイランケを上陸させ舟を三人あて上り
 ビバイ地名イ地名四地名は所舟九の支隊隊とは是もユウバリより来りや是と
 色ハシ一縷の紫烟をんりりりややアイランケあり最早九
 小屋は又度より止宿の用意は余も驚きと誤ワケをすふし用り
 来りし所を岬江ゆきゆきやあて此所終ハナ方舟お振をぬ舟日
 小舟れと陸を曳越えたるや語りぬも傍をかんを及去年
 余等止宿せり又又去年存姓名を本より記し

依てすまを侍ふ一絶を筆に

江邊草作褥一夜枕東流嘸々水禽叫悠々動容愁

十四日去し日晴山を驟融水勢いそ漲りてお人等も餘程苦辛
 東岸より西岸と其運流のうた棹さうり上りてレベツトサ
 ツビナイ地名等同じく平地をこぼる多ウラシナイ地名ハ地名一着を此所
 去年をこぼるトクフ一新有るは七年と折廢を依て川原お人
 トミハセを山入り一匹の狐を獲て歸るニホウシテを虫を糸小繫き鉤を
 用ひてて柵ユイ花ユイ奥を終時た數十尾得月下一場を俣て臥す
 朗晴三兩日雪解添春漲東岸又西岸蓬庭夢一場
 ナ五日遊る出船をトミハセ人セツカウレハ兩人を己の家へ七日と差入

之ヲを悦ハ一色不出精ハハ
 キナウレナイ チヤレナイ等々
 所々端の有るもふは取能く
 ハツとソラチブトイハナあり此
 川才ニ此又流るる深トカチ岳
 来りるハ七トツクフト是才ハ
 又流るるもや小人船を叩くと
 黒唇一人其船の中より眺め
 仰りぬ其方内ハ文席をき
 是ハ人余を纏きり依てイハナト三



山川如畫人
 出鬼の料
 吾邦を以て
 一葉秋冬能
 尚幕能言
 且避瘴氣
 補
 楊陰イハナ

ハセイタハウレの家を言フセツカウレ
 家着一回乃老煙州針糸虫
 字々々々旅行ハ書ハ余ハ各葱一輪
 叶ト干針ト文態の油を考て出
 赤の傍ハ狸豆 眉豆 粟 糠 粟 稗
 等を作是皆黒唇の業ハハ
 必彼等未ト針を不持ま軍
 上層も彼方ハ農業を教
 禁たらつた不決ハハ渡ハハ
 必依て鍼ハ横ハ柄を附用ハ



平信也

日數終て突^{トツ}區は月未^ト来^トる^トる^トも^ト月^トは^トぬ^ト其^ト空^トの^ト宿

ナニ東雲以^ト出^ト船を朝風^ト朝^ト陸^ト處^ト白^トは^トや^ト垂^ト揚^トと^ト祈^トは^トて

水^ト棹^トを^ト揺^ト美^トの^トり^ト髪^トと^ト柳^トの^ト糸^トと^トを^トか^トひ^トく^ト朝^ト風^ト

字^ト口^ト吹^トと^ト急^トき^トり^ト何^トと^トラ^トレ^トル^トカ^トブ^トト^ト少^ト知^トる^ト此^トの^ト才^ト七^トの^ト支^ト流^トは^ト何

源^トと^トマ^トレ^トケ^トは^ト後^トら^トり^ト由^トら^トり^ト必^ト過^トて^トウ^トリ^トウ^トフ^トト^ト知^トラ^トク^ト是^ト才^ト一^トの^ト支^ト流^トは

名^ト上^トは^トテ^トシ^トホ^トの^ト西^トら^トり^ト流^トら^トり^ト是^トら^トり^ト本^ト川^トに^ト入^トる^トは^トフ^トイ^トビ^トタ

ラ^トは^ト所^トを^ト初^トめ^ト御^ト替^トへ^トて^ト風^ト系^トを^ト流^トす^ト此^トは^ト才^ト舟^ト舟^ト艘^トに^ト少^ト人^ト等

三^ト才^ト舟^ト人^ト等^ト我^トら^トも^ト先^トに^ト坐^トを^トて^ト近^ト附^トを^トり^ト依^トて^ト是^トら^トも^ト乙^ト名^トク^トウ^トチ^トコ

一人^トを^ト呼^ト増^トへ^ト棹^トを^トか^トき^トて^ト暮^ト天^トベ^トツ^トバ^トラ^ト小^ト舟^トに^トか^トき^ト所^ト人^ト家^ト二^ト軒

シ^ト名^トエ^トリ^トレ^トウ^ト小^ト住^トイ^トソ^トラ^トム^ト此^ト乙^ト名^トと^ト我^ト去^ト年^トル^トモ^トツ^トへ^ト越^トへ^トに^トま^トり^ト也^ト也^ト也^ト也^ト

ウリウカモイコタン^ト小^ト舟^ト一^ト
重^トも^トせ^トう^トの^ト種^ト数^トなり

廉蹄草^トの^ト数^トなり
上川^トメ^トム^ト小^ト舟^ト一^ト
四五月^トに^ト花^ト盛^トなり



作馬州^トナ^トン^トバ^トニ^トキ^トセ^トル^トと^ト云^トふ^ト
上川^トイ^トチ^トナ^トン^トケ^トメ^ト舟^ト一^ト
異^トなり

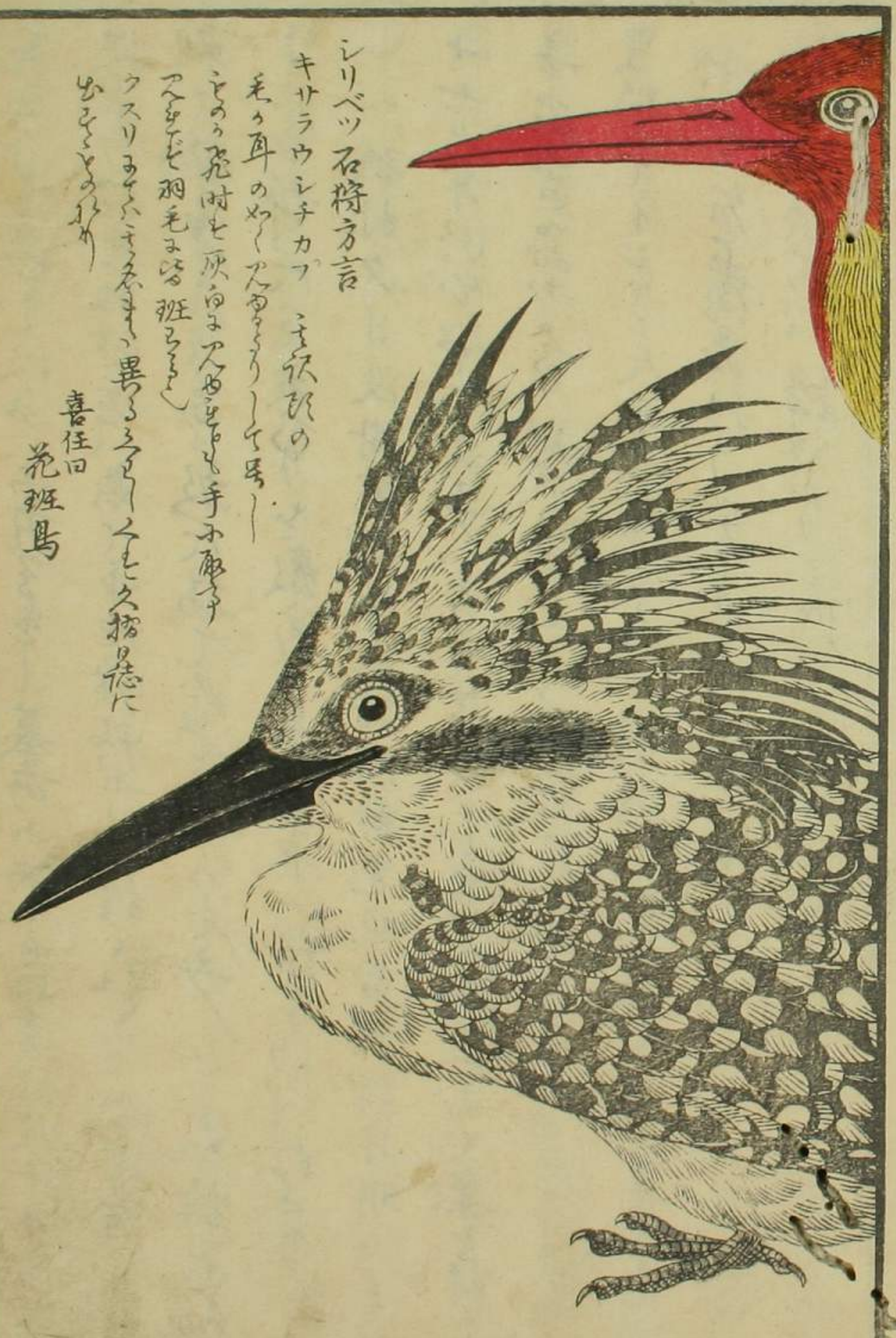
南溪
寫

石狩方言

ヲユケ 燕 越後 越前 山原 川 小
喜任曰 日光 三ツ トウガラシ コマ
一様 奇 小 色 奇 奇 奇 奇
主 得 主 得 主 得 主 得
叮 叮 叮 叮 叮 叮 叮 叮



讀書齋主人寫照



レリベツ 石狩方言
キサラウレチカフ 主 依 依 の
毛 々 耳 の や ぐ だ だ だ だ だ だ だ
その 花 時 を 灰 白 色 だ だ だ だ だ だ だ
ア 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
ク ス リ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
出 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

喜任曰
花班鳥

石狩日誌

死をうとむき故に土産字を暮前小供をぬ妻我にチライニ
 足と知能を扱出た反熱て平地曠野を種々其子と有る
 別て藜多く生る故に扱て喰ふてと土人等其怪しむ
 之を食料に用ふる事と教ふ星ぬ夜一絶を憐れむ

孤村夕日没樹裏炊烟生驚聞熊兒吼當頭新月明

十七日俣原の船水夫五人をいそいで小舟を出た
 舟に驚きおこるや歳久しきをあらわし又ツコトイ地ヲキタルヨニウシベツヨ
 学成てイジマンに左級をく人亦三軒 ヤエコエレ シロレ カニホロカ 過りて是より
 水勢急流を渡りナイタイベといふをこるや舟一舟に
 舟に驚きおこるや歳久しきをあらわし又ツコトイ地ヲキタルヨニウシベツヨ
 学成てイジマンに左級をく人亦三軒 ヤエコエレ シロレ カニホロカ 過りて是より
 水勢急流を渡りナイタイベといふをこるや舟一舟に
 舟に驚きおこるや歳久しきをあらわし又ツコトイ地ヲキタルヨニウシベツヨ
 学成てイジマンに左級をく人亦三軒 ヤエコエレ シロレ カニホロカ 過りて是より
 水勢急流を渡りナイタイベといふをこるや舟一舟に

舟に驚きおこるや歳久しきをあらわし又ツコトイ地ヲキタルヨニウシベツヨ
 学成てイジマンに左級をく人亦三軒 ヤエコエレ シロレ カニホロカ 過りて是より
 水勢急流を渡りナイタイベといふをこるや舟一舟に

舟に驚きおこるや歳久しきをあらわし又ツコトイ地ヲキタルヨニウシベツヨ
 学成てイジマンに左級をく人亦三軒 ヤエコエレ シロレ カニホロカ 過りて是より
 水勢急流を渡りナイタイベといふをこるや舟一舟に

舟に驚きおこるや歳久しきをあらわし又ツコトイ地ヲキタルヨニウシベツヨ

十八日身最出遊は上人の四水も又々嗽しむ先より池を二
 同は上人の椒道一帯をクウチニコロと名けて新巖を攀巨石を
 飛ぶ怪息を別叙し一この名區をカキキリにホロレベベと名を
 兩岸より川中へ降りしつゝ又ハツの淵ありて岩をホロレマと名
 するは水中にハツの鳥帽子の如き雲出たホロレベベと名同き
 又岩感きし所の隙くホシノミタルマイホロミタルマイ等の奇石
 多しハ挺ありて石椰子花も云々処ありラナエルと名あり
 名ありて大岩の上を吹く上人等下湯を深潭に推流を盡す所
 好むと傳ふ鬼の足跡とて凡三圍斗の井の如き穴三つ深き洞あり
 一文餘又傳ふ五つ洞ありてエモレケと名も山靈鬼を祀るなり

又先を切口し所と云サヌレベリと云ハ兩岸愈狭し其工
 水渦をまきりテツレラマナイと名南岩ハ一條の飛泉ヲテツレ
 と名水底ハ柵と名結りぬく一と名石垣松の枒らテツレを竹架着て
のやと名あり
 ルイカウレハ昔石橋あり由は傳ふことハルレナイといふハ
 ありテツレキウレバハサテ
カモイコトナシ此所ありて一は伝ふなり丸木船も五六艘候
 あり所是より又舟ありとて支度する傍の石面を託し
 水聲耳既慣眠到東方白雲晴日三竿起来先漱石
 残山又剩水危棧蜀中同歷記奇景筆凡慙教翁
 山水両奇絶神剽與鬼二看来皆破膽造化巧無窮
 崑罽水愈怒吼恰如雷属目皆堪記愧無華客才



弁皮衣
服足
魚肉倉
資堂
在此山

神庭の園
多江古橋
江



河裏
長存太
古風
木堂



水底と云はくもろ大石清厚く水急く崖樹梅枝葉あかりあり
根を露草立は峻崖おと白糸と乱り如く或は布と瀑せりや
怪むる形もあ條らへんケアソナイアソナー等もたは方ニツイ
シヤバと云はく数丈の巨岩のなかへおぼろ立お人をも此所より本郷と
削て途中のあを初るアソナイフライと云はく突あつる大岩は流れ
砕けは傍を導きカモイ子トバケと云はく七八丈の立岩は怪鬼は
舂の如き物崎立は此よ少あゝ無急流にて人七木の形も角お
ちりて強もく曳三人の水篇もく突張糸と垢と汲捨り辛苦若
ちりて大弾指の油けと云はくやあや方を流しれり危き事
程度あやりのレイコロブイラと云はく同く急激くトレスア子ト云

と彼鬼針の挿へありり一着葉具無^{カハユリ}を^{カハユリ}入^{カハユリ}を^{カハユリ}化^{カハユリ}石
けりとも此鬼神と種々の縁故ありり一人も他も種々の縁故あり
と云はくコッナイイヌシナイ等あまの能行エタンヘツト此邊へ
耳もや少く津流もゆるしんあまの能行^{カハユリ}ぬこイチカブニと云はく小山は
麓よき一宿をへりり大坂あり一宿をへりりあまの能行^{カハユリ}俄ちり
流も小繋りり一夜を明しぬぬと云はく一絶を記置
繫艇垂揚畔霏微暮靄浮蓬窓苦蚊齧半夜泛中流
十九日解船^{カキ}キリレベツサラベツ等と云はくチクビツブト一着は
此所番屋一棟あり先一回の安を祝し船舟をゆるりり人目せ
定め上川徑の土人より一新お煙草一抱お人お糸お針等々其お

六十有六の者あり手拭一筋を著し

母日星大些々梅の浮く園磨ふ入梅す及少列の此地を依傍

女一の世船 クーチンコロ タヨトイ シリコツ子 トミセ等と連て

チクベツの船はベツチウシ小列の此所人聚る新 シリコツ子 バリキラ クンタク イツテタ タレレ

一と五歩刀へ是より大流木より舟もよきさう内ひり依て夏舟を

並門筋より陸より陸地若筆鬱葱して是より酸辛筆小魚

新 年後を臨み出たり是より若りけり夕方岳の麓

獲りて宮へし百狸^{ニキ}も足と獲たり 七のつとれ 七をばら

女二日黎明堅雪のまをありさうた頗る雪 四と梅本はう西

の方眺屋をん方行 是より岳の麓依傍の西南に向ひ夕方ベツの

川筋水より樹木をかり 窓より宿をさす威あま夜を保

女二日月影より出足は^{ケンセツ}は上あり かきこ かくて静か

各表度四とビの襟の出入り回廊を山す後より山頂を

黒烟天を利きをるるお人のさへビベツも此よりより涌出

故よ水小酸味ありけりけり岳嶺よりより新 依り下りた七

本系た出さる茅葺木出火を放ち宿中 燭火を燃す実懐

女皆愛慕無吹立火未収出さる 鐘ををらる加ふそ入に

川の東岸 依り下りて夕方ベツの宿に宿 翌

女五日微雨蕭々チクベツのよ出半後人家の曲者お出さる先達の

傍本を水小押はれ渡り静かた川原を大声を呼り

胡女一人如來り番屋この廻り道を指し 呉まり

雨餘畧約断其如道路阻隔水對老獠水聲攪人語

女二の夜中より徹る慈水水源の教習人を定むビヤトキと太は手と

熊小喰らわたり只たのよ一本子し不具おきり山中のり番友故に

是を魁首とシリアイノイワンパカル セツカウシ号人申はる

夕方晴小幣を伴せ山沖少許 兼酒一陶を閉り

山雪映天冷水煙遠樹斜沛然一夜雨滿澗糝楊花

廿七日早起解纜を七八丁よりメム此所人家五軒 クウチンコロシユ

ワイノカントキ儘 ワイランケ儘 メムトと屈曲する小流の涌出する所を去るこの邊の

老は似れども駭火五六疋を飼ふもの其家を問ふ不曉解

は川は潮も如き人とは檢まり取をも老は似れども其の程も加

たおとくももとの也折能くは朝と解籠る多し影を一刀

きり大い川岸に居るに鱒川より来る沙流にまきや大

飛して直に頭を咬り持来りふり外のまきと附きり

馴らふ長行儀は友物なり依り此まき老は似れども大を大切し

我の食を毎小喰をふり其の飼養り秋味の法を一日に四五疋

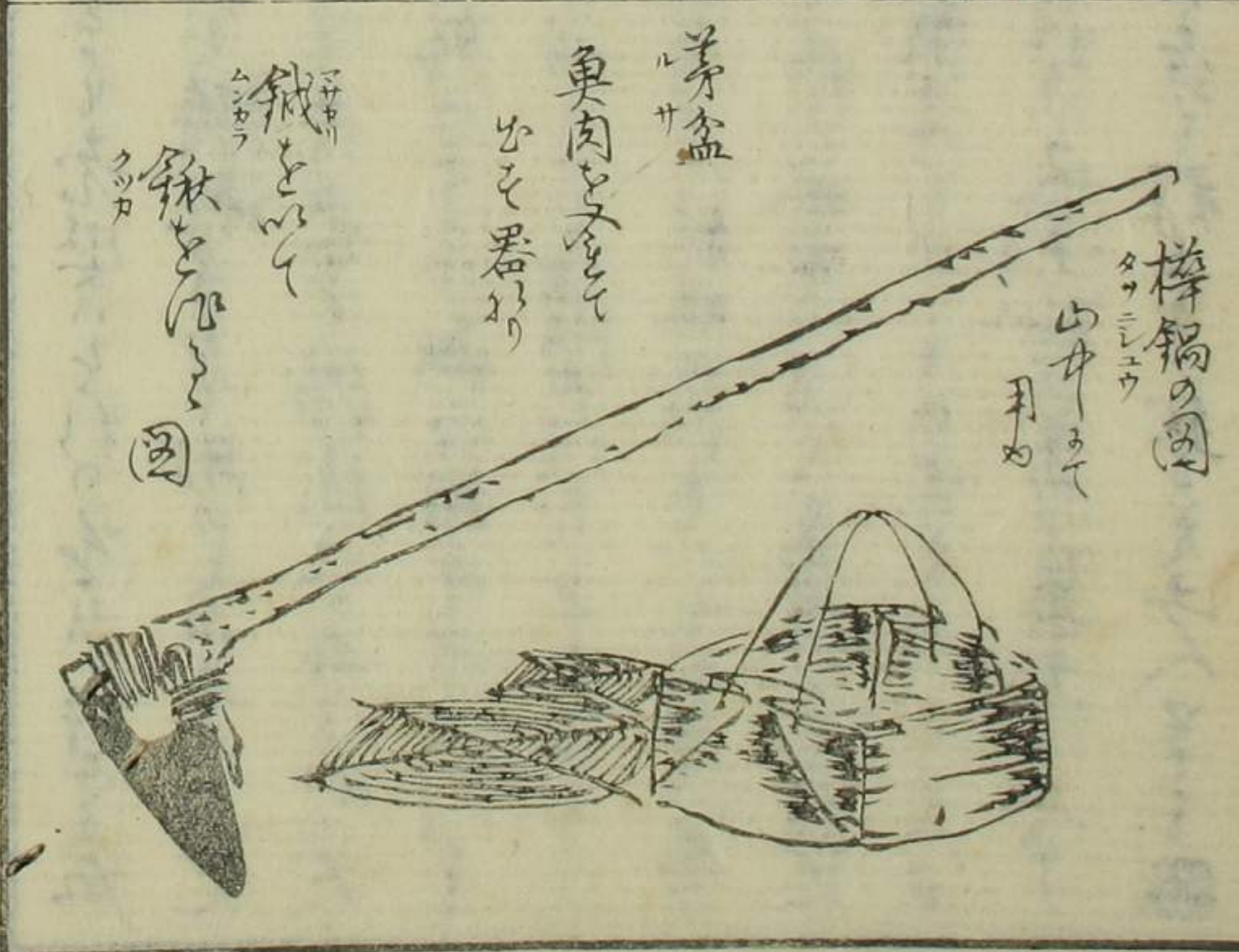
も取獲りや板又出船してよや水勢より急岸に流本

多しウレヘツ地ヲチンカバ内此所教習ビヤトキの家を川よりたて

所築柵を作りてより鱒を取由り又黄脚のまき築立し

不日の老の陸まき斗の鷹多し群まり然を去人をも離

びるをきいて捕らんをいふてウエン
 ギウバ地ヌサウシベ同キンクシベツ同字此
 所より人家ニ移カ^{ユラクセ隣}又須更^{モヒラク}
 してアサカラ爰より人家に此
 百連来りニホウシテアイランケウの
 多く供よ出迎ひぬ余は蕎麦葉貝^{ユトリ}
 母の園子と乳羊根と菜豆^{ホシ}等先
 鮭卵をほつて是と主人の砂糖とを
 きて一笑して一問の志を振舞^{サシ}
 延胡索 アンラコロを二袋并の
 黒百合



棒鍋の圖

山中にて
用也

茅蓋

魚肉を煮て
かき器あり

鉄を以て

鉄を以て
多カ

糧少くも是よりしてウエンベツに宿を此所へ来五軒^{イソチエウフラテ}
 エナラアル^{ハシゲル}此所へビ、の主人^{コマ}も呼出^{コエキ}て
 蓬窓山色曉乱柵水争流烟歛朝暾上處々聽鶉鳩
 廿八日朝霧濛々上陸して南岸を眺む十甲四面をも思ふ曠野ありて
 茅茨款々虎杖種々れをり昔の川を維目障りたる
 志く石橋岳に蘇を一時にたはをりて^{コエキ}此方後牙を蘇麻の草成
 使りて^{風呂}此方後牙を蘇麻の草成
 行に甚きは風を吹りて^{風呂}此方後牙を蘇麻の草成
 風呂の事外^{風呂}此方後牙を蘇麻の草成
 此の病氣もて温泉に^{風呂}此方後牙を蘇麻の草成

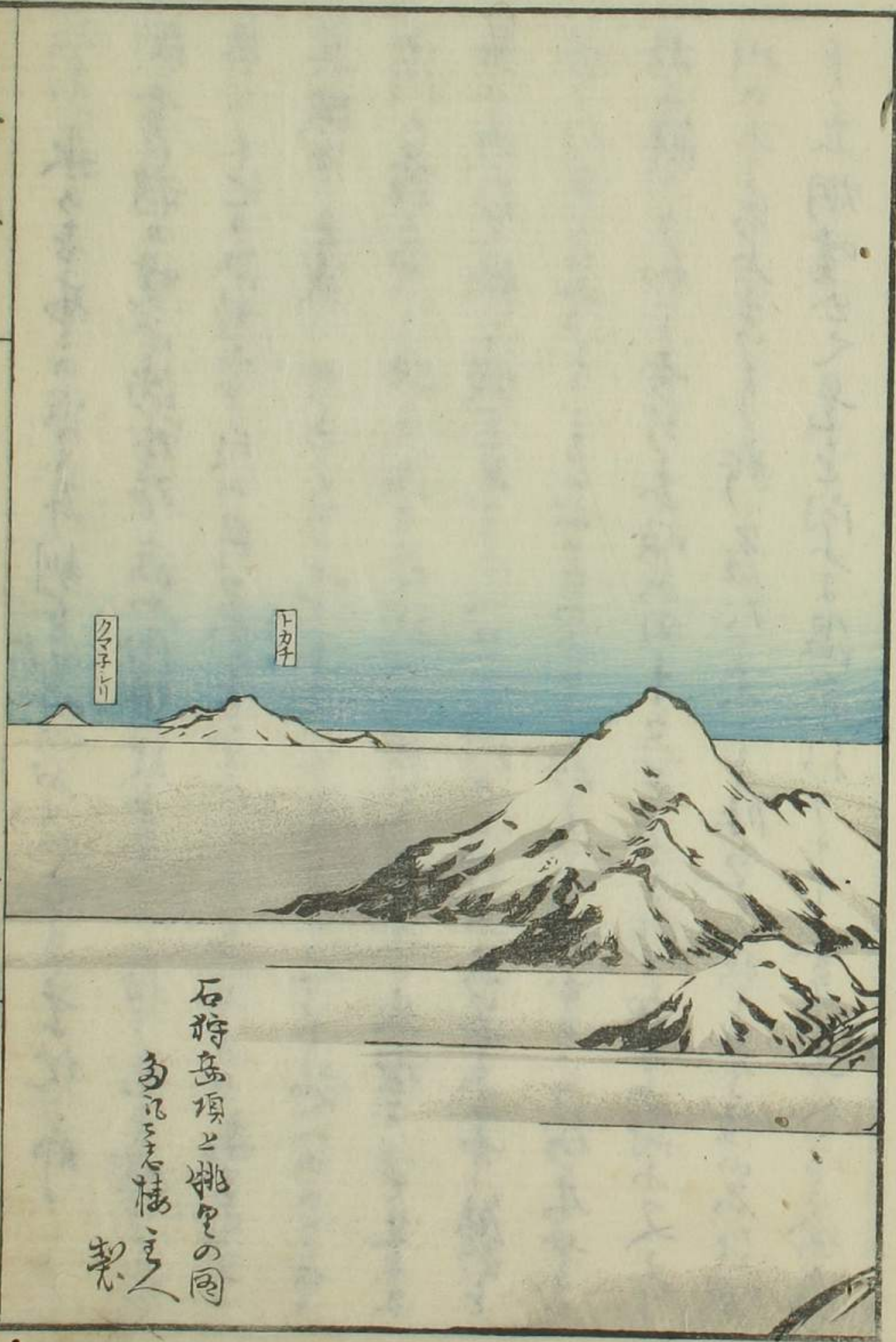
治をりたりあふぬきなり九四三三イリて^五 教園に榊柏原
 みのりなりあふトコシとふふた岩山一ツ山^{カシノ} 雲霧を由めて^{エナキ} 木幣を五
 又根をりたり三度土人を必は是を^{カシノ} 又小三山三ツ汁を三
 夕方イチナシゲ^{九四里} と系射り其川隈の密を益のつは忙政あり
 故に夜にりたりなりきや^{カシノ} 一足もあきりたり
 夢ありたきぬ山はれ学校馴年一むに夜を守りつた
 廿九の嶽高封山信も混沌界のや一依て遠れた傍々や茅草あは
 一曠き事志を新一此遠鶴多一其れも少人も是と^{カシノ} 鶴と
 海さなりりたり九二里ナリ山ふよりなりり二里ナリ最子岳の半腰
 とも名あり人々問りあり是より山を越てアシダラソヨマナヘウレ

等と云川を越て榊お射りと答へた大ふ力を^{カシノ} ぬ後を頼るは昨
 日^{カシノ} 辛々ウエンベツたりチクベツト^{カシノ} 是眼下に^{カシノ} たりたり
 就腕の望屋を^{カシノ} 如く^{カシノ} 是の^{カシノ} 是の^{カシノ} 人物を^{カシノ} ベツヒの山
 不傍岳より^{カシノ} 峯^{カシノ} 嶺^{カシノ} 三^{カシノ} 好^{カシノ} 之^{カシノ} 向^{カシノ} 京^{カシノ} 人^{カシノ} 方^{カシノ} 一^{カシノ} 心^{カシノ} 事^{カシノ} 事^{カシノ} 依^{カシノ} 依^{カシノ} 依^{カシノ}
 大^{カシノ} 昔^{カシノ} 亦^{カシノ} 少^{カシノ} 心^{カシノ} 見^{カシノ} たり^{カシノ} 本^{カシノ} 三^{カシノ} 年^{カシノ} 一^{カシノ} 望^{カシノ} 事^{カシノ} の^{カシノ} 上^{カシノ} を^{カシノ} 下^{カシノ} たり^{カシノ} 射^{カシノ} 射^{カシノ} あり^{カシノ} サ^{カシノ} シ^{カシノ} ゲ^{カシノ} ツ
 マ^{カシノ} ナ^{カシノ} イ^{カシノ} れ^{カシノ} 六^{カシノ} 里^{カシノ} 一^{カシノ} 恙^{カシノ} 事^{カシノ} 此^{カシノ} 事^{カシノ} 文^{カシノ} 峨^{カシノ} たる^{カシノ} 嶽^{カシノ} 嶽^{カシノ} 空^{カシノ} 一^{カシノ} 大^{カシノ} 岩^{カシノ} 岩^{カシノ} 亦^{カシノ} 亦^{カシノ} 入^{カシノ} 此^{カシノ} 所^{カシノ}
 は文化度^{カシノ} 間^{カシノ} 子^{カシノ} 身^{カシノ} 此^{カシノ} 所^{カシノ} を^{カシノ} 考^{カシノ} 此^{カシノ} 處^{カシノ} 一^{カシノ} 密^{カシノ} 地^{カシノ} 事^{カシノ} 一^{カシノ} 傳^{カシノ} 傳^{カシノ} あり^{カシノ}
 此^{カシノ} 遠^{カシノ} 詭^{カシノ} 術^{カシノ} 亦^{カシノ} 亦^{カシノ} 眼^{カシノ} 閉^{カシノ} き^{カシノ} 秘^{カシノ} たる^{カシノ} 連^{カシノ} 一^{カシノ} 大^{カシノ} 事^{カシノ} 事^{カシノ} 困^{カシノ} 一^{カシノ} 由^{カシノ} 事^{カシノ} 川^{カシノ} の^{カシノ} 形
 此^{カシノ} 後^{カシノ} 亦^{カシノ} 一^{カシノ} 唐^{カシノ} 大^{カシノ} 事^{カシノ} 一^{カシノ} 度^{カシノ} 大^{カシノ} 事^{カシノ} 利^{カシノ} 教^{カシノ} 事^{カシノ} の^{カシノ} 考^{カシノ} 事^{カシノ} 亦^{カシノ} 亦^{カシノ} 宣^{カシノ} 宣^{カシノ} あり^{カシノ}
 思^{カシノ} ひ^{カシノ} 多^{カシノ} あり^{カシノ} 又^{カシノ} 一^{カシノ} 徒^{カシノ} を^{カシノ} 賦^{カシノ} 一^{カシノ} 炭^{カシノ} 一^{カシノ} 事^{カシノ} 一^{カシノ} 事^{カシノ} 一^{カシノ} 事^{カシノ} 一^{カシノ} 事^{カシノ}

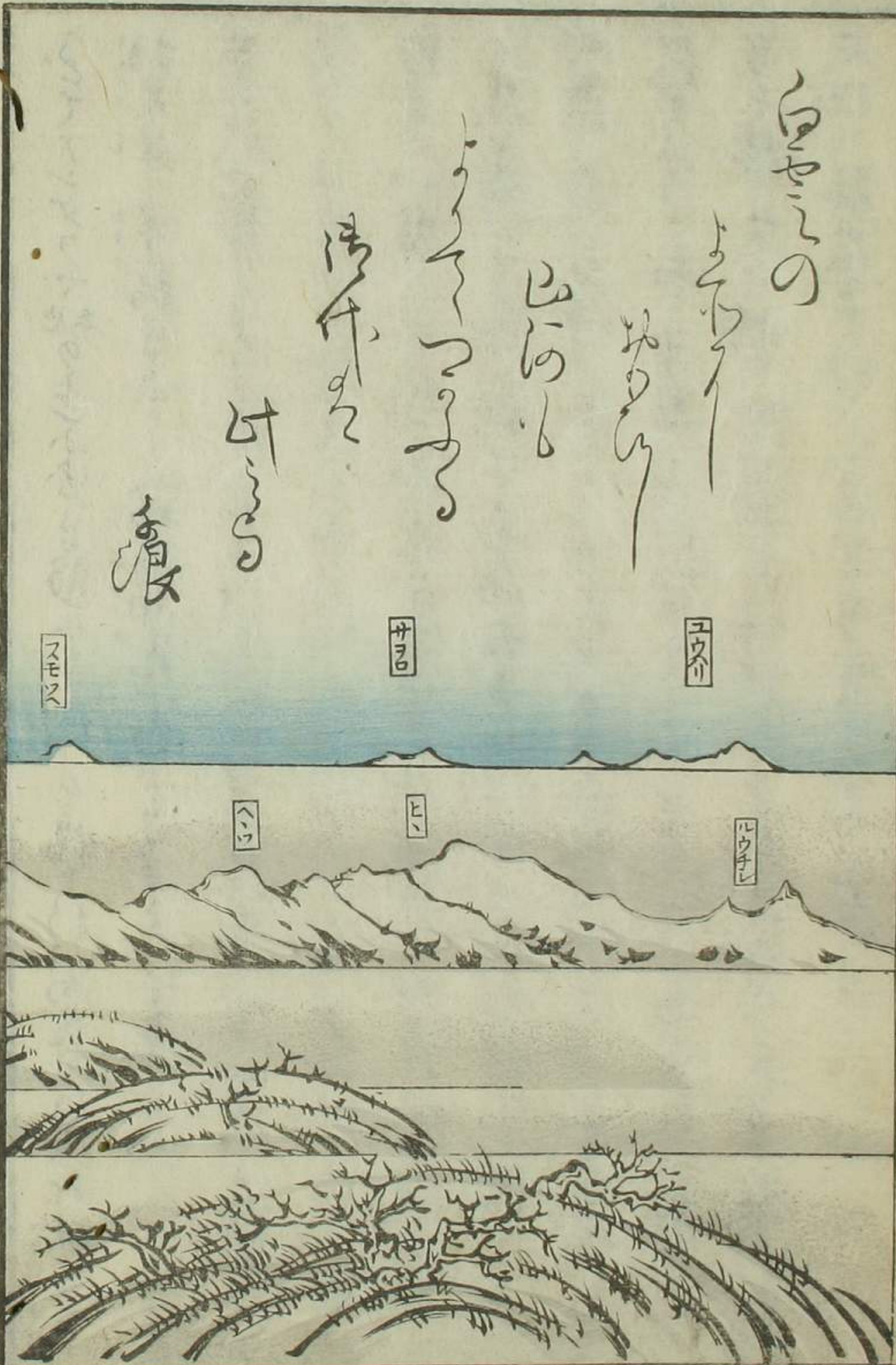
山蹊與水涯原野又林樾晨發認熊蹤暮天投狐窟

世日起嗽湯沸水烟滿洞咫尺不無空小異域之趣有客叱曰の喰免
 小被勞レハハシレ川涯のハハシを促ハ川岸を五里絶壁のふ
 しく上ヲ新レ山又是レ無險悪レ老樹根倒箬海レ知レ新レ
 此所ハ石口レ矢と鐵レ一囊レ木レを携レハレ一レ山レ不レ万レ氏レ此所レ引
 返レハレトレ余レ再レ警レ怪レ此所レハ酸レ辛レと嘗レて後レの讀レハレ
 國家レ為レたレ稻レ笑レハレ出レたレ西岸レと戦レハレ先レ歴レ又ハレ沢レ候
 中レと上レんレ志レハレはレはレまレ未レ也又レ一時レ半レ山レと此所レ兼レ
 ありレまレ丑寅レの力レにテレホレの巔レを人レ寅レの力レ不レトガニウレシレ知レ少レと
 眺レみレぬ又レハレ須レ更レハレ雪レ路レ入レ下レハレ半レ時レ半レ山レと此所レ

としてアンダラマ地カのまレ不出レ喬木レを倒レハレ橋レ行レ向レ岩レ越レ此所レ献レ春菜
 胡荽草カ 旱藕カ 又レ姫レ石楠花カ 一面レ不レまレ方レりレ生長レりレ土人レ是レを
 茶レの代レ小レ煎レりレ香レ氣レまレ佳レく又レ一時レ半レ樹レ立レの山レを雪レ路レはレ便レりレ
 下レリレソヨマレナイレ地カと云レたレ此レ川レ解レ多レきレサレ捕レまレはレまレ斗レ之レ依レ
 穴レありレ一レ宿レ一レ川レ不レ入レたレ水レの冷レあレりレ足レ先レ切レ身レ之レ終レ時レ不レ五レ六
 十レ屋レを滑レりレ又レ又レ訓レさレ山レ鳥レ數レ多レきレ人レ嘗レて鳥レ雀レの類レをカレハレサレヤ
 向レ岸レホレ一レツレの浮レりレ是レをルレベレハレと云レたレ少レ海レ岸レユウレベレツレ昔レ越レハレ
 以レ目レ行レりレ也レ其レ奥レ不レ先レ程レカレニウレシレを又レカレハレりレ板レ土人
 等レ七レ樺レ皮レと剥レて丸レ小レを補レ理レ是レを曲レて筥レハレ是レを飯レをレ
 又レ梳レハレ樺レ皮レをレ作レりレ其レの管レ亦レ實レ不レ奇レと云レふレ



石狩岳頂と排雪の図
 多田三三稿
 製



スヘン

サロ

ユウ介

山

の

景

を

見

る

石狩

ヘン

サロ

ユウ介

水の音木の端も耳馴して結ぶやなき子杖の那

閏五月朔日曉日赤粉陸高雨樺皮を虫草と仰り是を被りて出
思らく七日江都なる片の氷を煮てんまを沸かすや数里くま
異域を感一四とあり是より又遠まのまをこりや必へウレと云
小川の岸より此を煮る本川の兩岸を越しきる未だ一と是を立
原を所行依り我学是よりへウレの川なり大昔糸の井態を
認るハと云と上りまう岳の良ふ也此を立原のまをこりや必へウレと云
故に解りりわく歩みま喉ぬまを七と云と此を押りか何れ又本
川の上をよままより断崖なる下を降りて後き怪岩は有
り玉烟噴出之是を問ふ温泉行りて金く土人言ふ余も此

東面へ連来りては是を火ききと云の由に火をこきまはるるや
故に中を火のぬ又七八丁上り岩窟を火あり是より窟をまはり
て威凜然とて森をまはるる焼火を臥り

二日積雪如銀にして是より上り九一峰をよれすまはるる旭
外りて四方一面は霧なり何れか之新し山を屈曲し樺皮斗り
枝を皆風よ引て怪友旅を行ね暫くして霧漸く吹拂りて先
弁て北の方よりテレホ岳まで千トガニウレ順にまたまをこり二つのまをこ
りて土人此を何れか山をまはるるをあらはるるトコロの山を思ふ
岩尖りてや海の上を突かぬ後まをこり又志より上り頂上よりぬ
此後後より岩山五鬚松迦をり実より種をまらぬ

川の
 山乃
 あ
 福
 石
 ま
 花
 尾



霞
谷
寫



西南麓をチクベツ岳ベツ岳ヒエ岳等々登りて峯密馬の背の
 如く連続するをくもトカチクマ子ヒリサヲロユウバリの岳は白
 を磨き如く雪舟は皆之故に、この朝の眺望の百人雲霧吹散や
 四面も多数の群山靡遠く波瀾の響湧を、かゆく其急を指
 示する山も、あつ何をも是れは、あつ敢てかり大不望を告ぐぬ
 然るも石狩の水深と此岳を、くもトカチ岳の百不路、くも
 正さる所は慎みか定ぬ、拙を人との移るを、くもトカチ岳を、
 くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 結りぬ、杖を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 梅の飯を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、

思ひぬ、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 三日己攀盡雲巖與雪肌仰看天地大俯覺氣候異
 杖見くもトカチ岳の杖を折りて、尻を杖を小脇お抱にり、くもトカチ岳一
 小半時計に昨夜の宿所の之着ぬ、愛を、くもトカチ岳を、
 山上の雪を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 三百早晨出立雪を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 雪えの筋を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 玄圃より夜に入る、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 白雲を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、
 五日雨大、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、くもトカチ岳を、

豊〜〜射射の快楽の極もいふに及ばず増中も越さず
極の心も重く増中も一故濁るも真の趣を能く秘含し此海も
吟も如何と人とも一回志を配と致さ〜〜夕方シリアイノ一段の鹿を
鹿の前より射る〜見ると先赤心〜〜夕方シリアイノ快楽を

熊峯連夜雨食盡殆空囊一箭殫麋鹿當充三日糧

六百快もあえ色も拭掃るも男の心も小川の心も昨夜雨の心も
大よ減さ〜〜故出立を其工本川の心も増し出立も女人の心も
牛の心も増し〜〜昨夜の心も川を渡りたけりゆ〜〜夕方シリアイノ一段の鹿を
鹿の前より射る〜見ると先赤心〜〜夕方シリアイノ快楽を
七百出嶺野春州 終子月の首小生長ウエビツ〜〜是は船も〜

け急増舟矢を射〜〜早〜〜社〜〜旅〜〜及於居〜〜眩〜
今又到〜〜事〜〜候〜〜夕方大番を〜

黄昏下溪水新月掛林梢篙天頻勉力沙灘舟易膠

八日遊る由船を必頼〜〜霧イワシバカル〜〜シリアイノ〜
九日遊る由船を必頼〜〜霧イワシバカル〜〜シリアイノ〜
カキイコタン
十日雨を〜〜ベツバラ〜〜宿〜〜候〜
一葉も〜〜雨〜〜候〜
此地の〜〜雨〜〜候〜
莫と入熊の油も〜〜候〜

十二日水烟濛々咫尺を舟を出船 舟を以てウリウフト一なる是より
ウリウは棹より此邊を渡流の急なる所より水勢が急なる
ヲモレロナイと云々方イタイベシの川は急なる夜故に急なる

好むと云々舟の丸木船流の急なる一初なる所

十三日曉霧初ぬ頃四つとよセヨボラと云々たつ所 右の方
二る舟舟の急なる海扇ホツキ 船の急なる所
舟に妻人等禁めぬこと成の方丸を舟にホロリと云丸三つの中を
入る舟は急なる舟の急なる所 舟の急なる所
の急なるモツペ順のラベラレベツの急なる舟の急なる舟の急なる舟
嶺と川係丸舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟

ル、モツペの方より開入る舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟
カルウレ急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟
二人を舟の上より舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟
舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟

奔湍數十里激浪雪成推坐看雲遮嶺驀然送雨来

十四日快晴色如洗舟勢急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟
舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟
水より舟を押し舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟

神を不到し両山數十丈壁立を舟に五株松如く生盛る川中
七八日舟底深く急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟の急なる舟

レリアイノセツカウシの或人を連北岸岩壁に括檢を杖に巨岩
 怪石の上を飛越^{トヒコエ}逆越^{ハジメ}りて三石余るまで支那嶺^{セウリウ}を尋常状成り
 たるありて歩窮るる勢運^{シンド}海^{カイ}に津^ツ我^ガよりを去りてチライの二人
 四人の物群居るた拙^{シラ}清^{セイ}友^{ユウ}と頭^{カウ}を上げ形象^{ケイシヤウ}怪^{カイ}も憐^{レン}蛇^ダの如く括
 檢を以て四人斗の物を一尾得りて嘗て異^イる物ありて葛^{カク}を取
 鎮石^{シツシ}を試^シむたに十尋ありて未^ミだを知らずを結^{ムス}るまゝて二人を括
 籠^{カウ}に終^シりて中^{ナカ}に切^キりて平^{ヘイ}三^{サン}度^ダ突^{ツク}奇^キとて一人岸^キの流^{リウ}水^{スイ}を以て
 筏^{イバ}を仰^{オウ}りて是^{コノ}より多^タく五^ゴ尋^{ジュン}哦^{アハ}く屋^ヤ敷^シ一^{イツ}屏^{ヘイ}風^{フウ}を平^{ヘイ}る如^{カド}き^キを拵^テて
 四^シ五^ゴ千^{セン}百^{ハク}より奥^{ウチ}の乃^ノ女^メ七^{シチ}八^{ハチ}百^{ヒャク}一^{イツ}條^{ジョウ}の流^{リウ}をりて下^{シタ}りて三^{サン}石^{シヤク}の石^{シヤク}ありて
 波^{ナミ}立^{タチ}吼^ウると千^{セン}石^{シヤク}の石^{シヤク}の一時^{イツ}小^コ流^{リウ}如^{カド}く波^{ナミ}倒^タれ狂^{キヤウ}辛^{シン}とて近^{チカ}くおれりて



雜音都招討崑崙探星宿豈料
 百世下有人幾遠躅壯志鬼神
 助蛟龍遁且伏濯足九重淵洗
 目千尋幕歸來縮作雷奇變堪
 睡目知此方寸福一部河源錄
 樂江小史川田湖題

冬之生堂

湯を依て五層の窓より勢く眺望する水烟吹来り机をくさるる
 新しき紅楠西に傾くや映る紅霞の如く輪をり瞬とるる方
 我等の客も彷彿と瀑布の面は紫金の色を現ぬ土人其見を怪し
 神と称す余是と我を二人の親の映るを以て諷き土人山雲のふ
 しく低頭を依りて止る余得るのチライを此に立したる面一
 尾の紫金集を現ぬ見をえて漸く土人我を不と見り又代り
 糸よりゆき見別阿波の國權頂の不動の素縁と稱すも同利なり
 彼を去るきり只水面より烟のや火燭の燃る如く方々へ不動の形と
 なる此は異草の根にたれも土人の言に任す一葉とも取らざり別
 有りやりの太く道く生るるた涎を流し石を巻く白筋らるる不

ぬ又おき琥珀を多く拾うる品座と同一然をたる露を晒らるる
 切能はたきやお果るあは見え玉類松の脂の如く凝りしより塵
 を吸ふことと南の春より八日一ヶ所テレボのうらうらと
 十五日宿去未散起て艦一たる激浪船より打入故に方おキナを立
 所よりワソカリと云々水と云々土人其みんを不辨と視へたを
 夕の突は眩む身より四つとチカへて夕方イタイベレと宿ぬ
 十六日宿も憐れ早散を午後トツクは蒸れ
 十七日曉霧如例出立ソラフチフトより入須更にラホンゲツラ
 レユラマ
 ナイ等越此邊屋敷あり針伝も辰已不取れ九つとをより
 たる道へ高山樞木立たりと崖石炭と云々散るナエークラ

石門山記

石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記



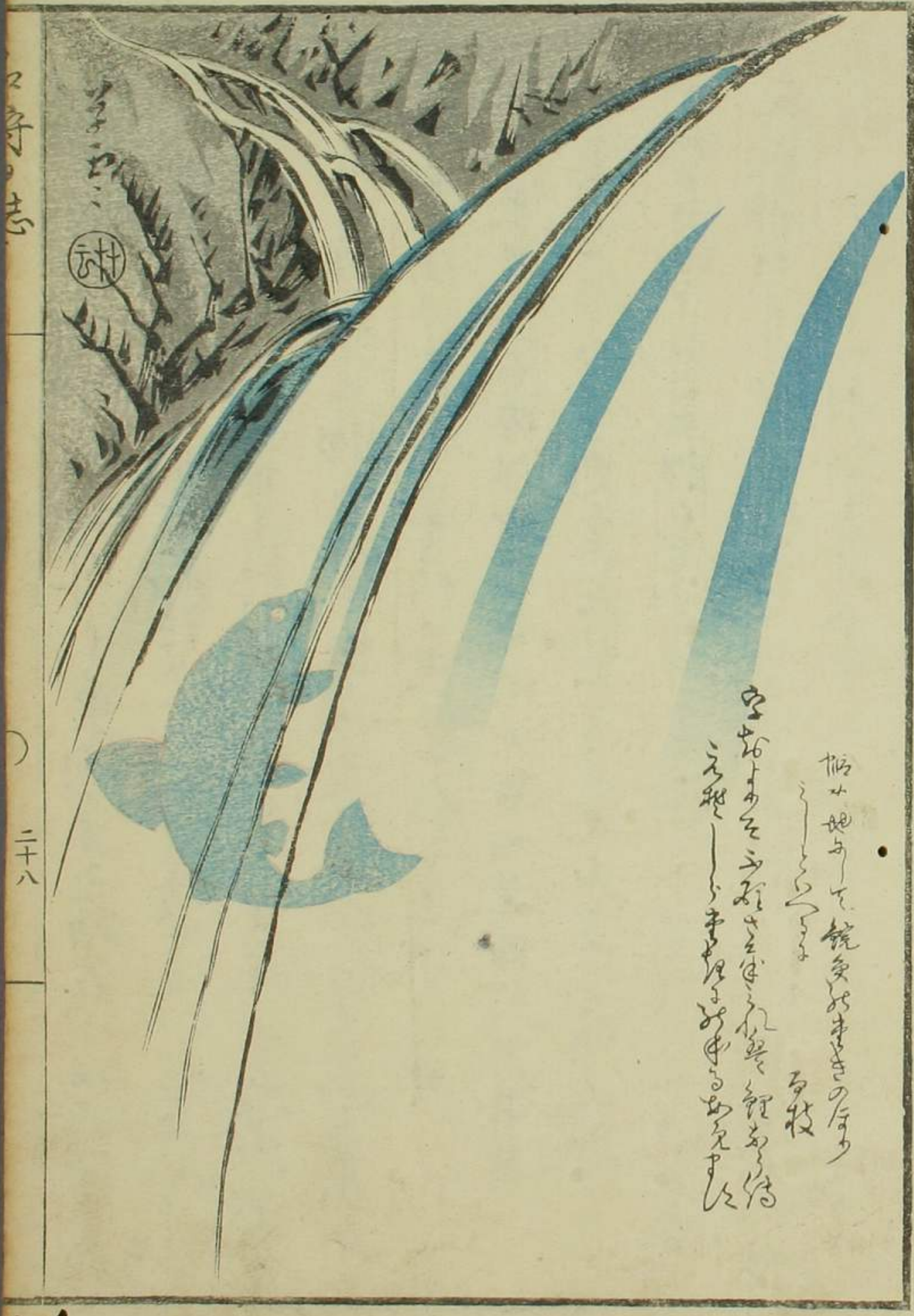
石門山記
石門山記

石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記
石門山記



石門山記

夕方ゆり来る暴卒のふり上人アラスカスが鯨を数尾取獲り余福也
 望く大能を眺望し居れし何れかの雪閃く物もく人定むも
 其の能をよめ其の時を具閃くも其の刀を留るなり
 一たび二交り只る鯨の映るなりかたもく扱て魚を何れも
 其の能く鯨のチライは一丈位をよめもく高きも又も
 不上得と依りし能くよめ扱て魚似る魚カシカは土鯨の
 と我ら鯨の就門よめを深く怪しと度漸くのりも虚候なり
 やらぬある然もよめ方丹ガ家の画や魚の素麵を喰ふ
 松平ユルユル優く物ありと扱て能の西一の深と成るなり終り一丈



松平地より鯨受おまきりなり
 魚の
 松平優く物ありと扱て能の西一の深と成るなり終り一丈

七八人斗りし時、兩岸より挺出し、岩間の石お落し、故に校尾標を吹
くやく、電然の急ら、電と和語ソウは、流の表之形、電は似、
一号ととも、又、主邊也、概難本立、岩峻、岩岩、人金、鶴、石、葦、
蒲、云、英、主、餘、種、の、物、石、と、也、云、母、の、氣、ら、つ、る、云、石、頭、
解、鏡、字、を、居、り、て、一、寄、主、傍、の、岩、一、能、を、ま、り、一、玉、

奔泉激岩石碎作雪花飛閑坐暫相望餘波忽濺衣

奥の子のゝるを、刀を、手、に、落、つ、き、石、を、お、り、の、位、山、が、那

廿日、前、の、路、を、取、り、上、船、急、流、に、掉、り、夜、入、春、川、へ、出、ト、ツ、ク、ま、岩
廿一日、快、晴、暖、ま、く、セ、ツ、カ、ウ、レ、ト、ハ、ヒ、を、家、に、残、し、レ、リ、ア、イ、を、上、川、へ、向
ニ、ホ、ン、デ、タ、ヨ、ト、イ、の、西、人、を、ま、り、余、と、三、人、擢、を、取、り、下、り、ヒ、ハ、イ、一、寄

廿二日、遊、る、九、つ、と、ツイ、レ、カ、リ、一、暮、夜、入、石、橋、之、小、屋、を、見、一、甲、二、日
振、り、結、髪、体、法、襪、被、り、卧、た、り、た、知、り、人、の、喜、味、を、見、り、如、
依、り、一、能、を、賦、一、孫、志、を、枕、上、の、灯、に、ま、り、一、玉、也

熊峒狐窟將三月泛宅穹虛亦有情憶嘗成吏受羈勒須

化鮭魚願再行

廿四日、鎮、坐、堀、を、由、所、し、着

廿五日、當、所、新、造、共、人、も、五、名、を、采、い、り、科、係、を、と、五、條、を、采、い、り、采、例、を、と、下、川、所、採、ア、ツ
タ、ラ、タル、ナ、イ、堀、所、采、大、有、合、り、敷、を、は、買、上、り、采、上、人、に、下、耕、作、を、始、り、採
石、橋、渡、り、し、い、家、を、ま、り、厚、之、感、佩、を、と、人、有、餘、事、行、り、也
石、橋、日、誌、終

沈熙遠曰。天地之氣各以方殊。而人亦因之。南方山水蘊藉而縈紆。人生其間得氣之正者。為溫潤和雅。其偏者則輕佻浮薄。北方山水竒傑而雄厚。人生其間得氣之正者。為剛健爽直。其偏者則麤厲強橫。此自然之理也。於是率其性而發為筆墨。遂亦有南北之殊焉。惟能學則咸歸於正。不學則日流於偏。視學之純雜為優劣。不以宗之南北分低昂也。余自幼好畫。經歷諸州而驗之真山水。果如沈子言矣。往者伊勢人多氣志樓主人。著北蝦

沈熙遠曰。天地之氣各以方殊。而人亦因之。南方山水蘊藉而縈紆。人生其間得氣之正者。為溫潤和雅。其偏者則輕佻浮薄。北方山水竒傑而雄厚。人生其間得氣之正者。為剛健爽直。其偏者則麤厲強橫。此自然之理也。於是率其性而發為筆墨。遂亦有南北之殊焉。惟能學則咸歸於正。不學則日流於偏。視學之純雜為優劣。不以宗之南北分低昂也。余自幼好畫。經歷諸州而驗之真山水。果如沈子言矣。往者伊勢人多氣志樓主人。著北蝦

夷餘誌其所載山水奇傑雄厚甚過於余所見者
焉。或曰主人不學画山水而得南北兩宗之趣何
也。余曰主人產南國。萬里窮朔方。故其所寫能得
真趣。如南北未判之時也。夫畫山水判南北者。官
士文人遊戲耳。養心耳。而寫真則頗有關於闢國
治世之要務者矣。余無官無文。以畫為業。多識南
北山水。特未見蝦夷之山水。一日主人持其所画
石狩真景及草木器物虫魚稿本。請余淨寫之。余
辭曰。主人之畫已得其真矣。又何以余筆之為。乃

書此語於卷尾。以付主人云。

萬延庚申深秋五顯生辰前三日於東台

南麓水雲山房西窓下 北總鷲湖水雄



單山高常書



